

先鋒としてチームに勢いを



大阪府大阪市で開催される第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会と鹿児島県鹿児島市で開催される第41回全国道場対抗剣道大会に出場する加藤優志郎選手(志道館学園)が、9月10日(水)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「剣道は精神面がとても重要なスポーツだと思います。町と県の代表として、体調に十分に気を付け、悔いのない大会となるようベストを尽くし、優勝を目指して臨んでください」と激励し、加藤選手は「県代表として、優勝を目指して大会に臨みたいです。また、日頃の稽古の成果を発揮し、先鋒としてチームに勢いを付けて後ろに繋がりたいです」と抱負を語りました。

高さを武器に世界へ



スノーボード女子ハーフパイプで今季のワールドカップに出場する大橋空奈選手(グローバルスノーデザイン)が、9月22日(月)に川地憲元町長を訪問しました。

大橋選手は「今はいい波に乗ることができているので、この調子でワールドカップでもいい結果を残したいです。自分の武器である技の高さをワールドカップでも発揮して、昔からの夢であるオリンピックへの出場を叶えたいです」と意気込みを話すと、川地町長は「養老町出身の選手が世界で活躍していることを誇らしく思います。今まで以上にプレッシャーがかかるとは思いますが、強い気持ちを持ち、活躍されることを祈っています」とエールを送りました。

悔しさ乗り越え、優勝掴む



滋賀県で開催される第79回国民スポーツ大会へ水球の岐阜選抜チームとして出場することを報告するために、野村倫太郎選手と大橋龍生選手が9月1日(月)に川地憲元町長を訪問しました。

野村選手(写真左)は「インターハイでは悔しい思いをしたので、そのリベンジを果たすとともに、これまでお世話になった3年生の先輩たちの最後の試合になるので、これまでの恩返しができるようなプレーをしたいです」と意気込みを話し、大橋選手(写真右)は「インターハイでは1回戦で対戦し、惜敗したチームが優勝し、悔しい思いをしました。今回は優勝目指してそのリベンジを果たしたいです」と話し、気迫を見せました。

人馬一体で掴む栄光



滋賀県で開催される第79回国民スポーツ大会へ出場する選手の活躍を祈念し、9月22日(月)に激励会を行いました。馬術で出場する秋山花吏奈選手(大垣養老高等学校 写真中央)と西脇友彦選手(ニシワキステーブル 写真右)、西脇小夜子選手(同 写真左)が出席し、川地憲元町長や早崎早合子町議会議長などから激励の言葉が贈られました。

選手たちは「初めての出場で緊張していますが、練習の成果を発揮して、悔いの残らない大会にしたいです」「今年はいいい流れの中で大会に出場することができたので、すこしでもいい結果を目指して臨みたいです」「他の選手のサポートをしながら、チームとしていい結果を残せるように試合に臨みたいです」とそれぞれに意気込みを話しました。